

臨時休業明けの年間指導計画参考資料 (地理的分野・第1学年)

※地理的分野（第1学年）の教科書での時数 53 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 2.2 時間

(第1学年の社会科全体の時数 105 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 16.7 時間)

※2020 年度は、2021 年度から全面実施される新学習指導要領への移行期間となり、地理的分野が5時間減、歴史的分野が5時間増となることを受け、一部内容の入れ替えや、時数配分の変更を行っておりますのでご注意ください。

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ■ この国はどこかな (前見返し) ■ 地理学習の初めに (表見返し～p.1) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界各国の景観写真や国旗のクイズなどを通して、地理的分野の学習に対する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3学年の公民と異なり、中学校の社会科学学習の初めになるため、地理的分野と歴史的分野を合わせて1時間で、中学校の社会科学学習の導入とすることとした。 ● 前見返しや後見返し、目次を見て、地理的分野・歴史的分野の概要を把握するとともに、興味・関心を持ったものをノート等へ書き出す。 ● 「地理学習の初めに」「歴史学習の初めに」にある文章を読み、中学校社会科の学習の意義について考えたことをノート等に論述する。 【0.5時間】※ <p>※上記の活動を踏まえて、中学校社会科学学習全体の流れや目標について、1時間（地理・歴史各0.5時間）で指導する。</p>

第1編 世界のさまざまな地域

第1章 世界の姿

(配当7時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動なし)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
2	1 地球の姿を見てみよう (p.6～7) 六大陸と三大洋	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球の姿を衛星写真や地球儀を使って大まかに眺め、球面上の世界に慣れ親しむ。 ● 世界地図を活用して、六大陸と三大洋の名称や大きさ、位置関係を捉える。 	
3	2 地球儀と世界地図とを	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな世界地図を、地球 	

地理-2

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
	<p>比べてみよう (p. 8~9) 地球儀と世界地図の特徴</p>	<p>儀やほかの地図との比較を通してその特色を理解し、目的に応じて活用する技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな世界地図を多面的・多角的に捉え、それぞれの地図がなぜ作られたのかを考察している。 	
4	<p>3 地球上の位置を表そう (p. 10~11) 緯度と経度 緯度のちがいと気温の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 緯度と経度について理解するとともに、緯度と経度を用いて、地球上の位置を表す力を身につける。 ● 緯度の違いが、気温の変化をもたらし、北極・南極などの高緯度地域が寒くなる理由を、地球儀を使って考察する。 	
5	<p>4 世界の国々と地域区分 (p. 12~13) 世界を分ける六つの州 世界の国々</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 現代世界を大きく六つの州に分けて捉えられることを地図上で理解する。また、アジア州を例にさらに細分化されることに気づく。 ● 世界の略地図を描く技能を身につけ、これを活用して学習内容をまとめる。 	
6 7 8	<p>5 主な国々の国名と位置 (p. 14~19) 人口の多い国 大きい国と小さい国 国境の決まり方 日本から遠い国 国旗は物語る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 州別の地図を手がかりにして、現代世界は多様な国々や地域から構成されていることを大まかに理解する。 ● 地図帳の統計資料を活用し、人口の多い国や少ない国、大きい国と小さい国を調べ、世界にはさまざまな国があることに気づく。 ● アフリカに多く存在する直線的な国境線とその他の国境線の違いに着目し、なぜこのような違いがあるのかを考察する。 ● 地球の正反対側に移した日本の位置を地図から読み取り、日本から最も遠い位置にある国々の存在を捉える。 ● 上記の活動を通して、世界 60 か国以上の国の名称や位置を捉える。 	

地理－3

※移行措置に伴い、第2編第1章「日本の姿」の内容を、第2学年から第1学年に移動させました。学習内容に変更はありません。

第2編 日本のさまざまな地域

第1章 日本の姿

(配当6時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動なし)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
9	1 日本の位置を調べよう (p. 128～129) 日本の位置を説明してみよう さまざまな位置に動かした日本	<ul style="list-style-type: none"> ●世界的な視野から多面的・多角的に日本の位置の特色を学習し、その特色を身につける。 ●世界の中で日本の位置はどのような特色が見られるかに関心を持ち、地球儀や地図を活用して調べる。 	
10	2 日本と世界との時差をとらえよう (p. 130～131) 各国の標準時と時差	<ul style="list-style-type: none"> ●標準時と時差の仕組みを通して、地球上における日本と世界各地との位置関係を捉える。 ●標準時と時差の仕組みを理解し、簡単な時差の計算をする。 	
11	3 日本の領域の特色を見てみよう (p. 132～133) 日本の広さを見てみよう 日本の領域 領土をめぐる問題	<ul style="list-style-type: none"> ●世界的な視野から多面的・多角的に日本の領土や領域の広さを理解する。 ●北方領土などの国境や排他的経済水域に着目し、日本の領域の特色や変化、領域をめぐる問題を理解する。 <p>※移行措置の内容だが、p. 134～135の「地理にアクセス」の内容も含めて、現行で十分対応しているため、教科書をそのまま活用した指導が可能。</p>	
12	[地理にアクセス] 日本列島を構成する島々 — 竹島・北方領土・尖閣諸島— (p. 134～135) 竹島 北方領土 尖閣諸島	<ul style="list-style-type: none"> ●竹島、北方領土、尖閣諸島の位置と、これらの島の領有をめぐる主張と現状を理解する。 ●日本からは、これらの島へのアクセスが現実には難しい理由を説明する。 	
13	4 いろいろな見方で都道府県を探ろう (p. 136～137) 都道府県と県庁所在地 都道府県や市町村の境界	<ul style="list-style-type: none"> ●都道府県や県庁所在地の名称と位置を地図上で身につけるとともに、都道府県の境界や現在に残る昔の地名・旧国名への関心を高める。 ●日本の輪郭・形状の特色を捉えて、日本の略地図を描く。 	

地理－4

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
14	<p>5 日本をいくつかの地域 に分けよう (p. 138～139)</p> <p>都道府県を基に区分する 自然や文化を基に区分する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の生活場面と関連づけて，さまざまな地域区分に慣れ親しみ，とりわけ7地方区分については地方名も含めて地図上で身につける。 ● 日本を地域区分して捉えることの意義に気づき，さまざまな指標による地域区分を考える。 	

第2章 世界各地の人々の生活と環境

(配当 10 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 0.5 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
15	<p>■ 世界のさまざまな住居 (p. 22~23)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本と自然環境が異なる地域に暮らす人々の生活に興味・関心を持つ。 ● 各地の自然環境の特色を、それぞれの土地で暮らす人々の伝統的な住居の写真から読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 章扉 (p. 21) の写真や語句を通して小学校で学習した世界各地の人々の様々な生活を振り返り、写真の読み取りの技能を基に、「やってみよう」の活動に取り組み、自分の予想をまとめる。 <p>【0.5 時間】</p> <p>※p. 22 の「地理スキル・アップ」は授業で扱い、技能を習得させる。</p>
16	<p>1 雪と氷の中で暮らす人々 (p. 24~25)</p> <p>氷の上の生活と暮らしの知恵 雪と氷の世界 イヌイットの暮らしの変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 寒帯地域の伝統的な生活を理解し、現在の暮らしがどのように変化してきたか考察する。 ● 世界各地の人々の生活と環境を学習するための基礎として、雨温図の読み取り方を身につける。 	
17	<p>2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 (p. 26~27)</p> <p>世界でいちばん寒い地域 木や作物が育つ暑い夏 都市の暮らしとレジャー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷帯地域の自然環境と、そこで暮らす人々の生活の工夫を理解する。 ● 日本の自然環境との違いを写真や映像資料、雨温図、その他の資料から読み取る。 	
18	<p>3 温暖な土地に暮らす人々 (p. 28~29)</p> <p>丘の上に栄えるイタリアの町 乾燥した夏と雨が多い冬 現代に生きる古くからの町並み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本と同じ温帯地域でありながら、日本とは異なる自然環境や生活の特色が見られることを理解し、その原因を考察する。 ● 町並み保存の現状から、伝統の中で暮らすための人々の努力に気づき、その努力や意識の違いに関心を持つ。 	
19	<p>4 乾燥した土地に暮らす人々 (p. 30~31)</p> <p>サヘルの人々の暮らし 乾燥した大地 変化するサヘルの生活と環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 乾燥帯地域の自然環境と、そこで暮らす人々の生活の工夫を理解する。 ● 地域の人々の生活が変化していくことを、自然的環境や社会的環境に着目して捉える。 	
20	<p>5 常夏の島で暮らす人々 (p. 32~33)</p> <p>自給自足に近いフィジー いつでも豊富な果物と作物 さんご礁と観光開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 熱帯地域の自然環境と、そこで暮らす人々の生活の工夫を理解し、その原因を考察する。 ● 観光や地域開発に着目して、各地域にはその地域特有の課題があることに対する関心を 	

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
		持つ。	
21	<p>6 標高の高い土地に暮らす人々 (p. 34～35)</p> <p>山を登り下りする生活 標高によって異なる環境 ゆるやかに変化する暮らし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 高山気候の地域の自然環境を理解し、そこで暮らす人々の生活への疑問を持ち、自らその課題を解決しようとする。 ● 標高差による自然環境や生活の違いを、農産物などを通して理解する。 	
22	<p>7 世界に見られるさまざまな気候と広がり (p. 36～37)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界の気候は、気温と降水量の違いから、気候帯やさらに細かい気候区に区分できることを理解する。 ● 各気候区の特徴を、植生、気温、降水量、緯度、標高などと関連づけて考察する。 	
23	<p>8 人々の生活に根づく宗教 (p. 38～39)</p> <p>世界のさまざまな宗教と広がり インドの人々の暮らしと宗教 ヒンドゥー教の決まりごと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界にはさまざまな宗教や宗教と関わりの深い生活が営まれていることを、日本の社会を踏まえて理解する。 ● 世界的に広がる宗教の分布を、主題図から読み取るとともに、それらの広がりを大まかに把握する。 	
24	<p>9 伝統的な生活とその変化 (p. 40)</p> <p>環境に適応した暮らし 多様化した食生活 都市の風景と伝統的な生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界の各地域では、その地域の環境に適した社会や暮らしが営まれていることを、自然的環境や社会的環境の違いを踏まえて理解する。 ● これまでの学習を振り返り、多様化する衣食住を取り上げ、なぜ社会や人々の暮らしが変化していくのかを日本の身近な生活の変化を踏まえて考える。 	
-	<p>[深めよう] イスラム教と人々の暮らし (p. 41)</p> <p>イスラム教と「コーラン」 礼拝と断食 地域によって異なる決まり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● イスラム教が人々の日常生活と深く関わっていることと、それが地域的に多様であることを理解する。 ● 宗教と人々の生活の関連について関心を持ち、それぞれの宗教を尊重しようとする。 	

第3章 世界の諸地域

(配当 29 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材 1.2 時間)

※移行措置に伴う時数削減のため、第1編第4章「世界の様々な地域の調査」の内容は、第3章「世界の諸地域」に含めて扱うこととなるため、第4章は削除しております。

※現行の第3章「世界の諸地域」で対応が可能です。資料の読み取りや地図の活用、論述、意見交換などの学習活動の充実にご留意のうえ、ご活用ください。

1 節 アジア州 -急速に進む成長と変化- (配当 7 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
25	1 アジア州をながめて (p. 44~47) 変化に富む自然環境 入り交じる文化 都市化が急速に進むアジア	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア州の自然について、雨温図などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身につける。 ● アジア州の文化や産業について、写真、グラフなどの資料から読み取り、基礎的・基本的な知識を身につける。 ● アジア州の人口について、統計、分布図などの資料から概観し、その特色について考察する。 ● アジア州の地域的特色を理解するため、「アジアは、なぜ急速に成長したのでしょうか」という学習テーマを立て、意欲的に追究する。 	
26	2 成長する東アジア① アジア NIES の出現 (p. 48~49) 東アジアの産業の変化 輸出とともに成長した韓国 ハイテク産業が発展する台湾	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア NIES の輸出の様子や変化から工業化の進展を読み取る。 ● 韓国や台湾におけるハイテク産業の発展を海外との関係から考察する。 	
27	3 成長する東アジア② 中国の発展 (p. 50~51) 巨大な人口が支える成長 拡大する格差と西部大開発 進む都市化と課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料から中国の急成長を捉え、その背景を考察する。 ● 経済成長について、その成果と課題の両面について理解する。 	
28	4 東南アジアの発展と課題 (p. 52~53) 増える日本への輸出 農村の暮らしの変化 急速な都市化と課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年、アジアの国々の製品が日本に大量に輸出されていることから、特に東南アジア諸国の産業についての関心を持つ。 ● 東南アジア諸国の都市と農村の変化の実態を、写真、統計資料などから考察する。 	

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
29	<p>5 南アジアで急速に成長するインド (p. 54～55)</p> <p>活発な世界各地との交流 変わる都市と農村 経済の自由化と工業の成長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料を使って、インドが急速に発展した理由を考察する。 ● インドにおける農村から都市への人口移動とその課題を捉える。 	
30	<p>6 資源の豊かな西アジア・中央アジア (p. 56～57)</p> <p>イスラム教徒が多い西アジア 石油でうるおう西アジア 注目される中央アジア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真や地図、グラフなどから、西アジアや中央アジアの国々の特色を読み取る。 ● 西アジアと中央アジアの共通点を考察する。 	
31	<p>■ アジア州の学習をふり返ろう (p. 58)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア州の多様性について、自然条件の違いに注目して捉える。 ● 「アジアは、なぜ急速に成長したのでしょうか」という学習テーマの答えと、今後の発展の予測をアジアの多様性の視点から考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 58①の基本的な地名の確認に取り組む。 【0.2時間】 ※上記の確認を踏まえて、1時間目で設定した学習テーマに沿って行ってきた学習のまとめを授業で行う。
-	<p>【深めよう】アジアで交流する文化 (p. 59)</p> <p>人気を集める日本のアニメ 各国で変化する日本の番組 活発化する文化の輸出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アジアに日本の文化が紹介されていることに興味を持ち、身の回りのアジアの文化を含め、文化交流について幅広く捉えようとする。 ● アジアの人々が日本の文化を自国風アレンジして受け入れている理由を、各国の事情を踏まえて考察する。 	

2 節 ヨーロッパ州 -国どうしの統合による変化- (配当 5 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
32	1 ヨーロッパ州をながめて (p. 60~63) 温暖な気候と広い平野 多くの国々 地域により異なる農業 近代工業の発展	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨーロッパ州の自然, 人口と民族, 産業の特色について, 雨温図, 分布図, 写真などの資料から概観し, 基礎的・基本的な知識を身につける。 ● ヨーロッパ州の地域的特色を理解するために, 「ヨーロッパの国々は, なぜ国家間の統合を進めたのでしょうか」という学習テーマを立て, 意欲的に追究する。 	
33	2 ヨーロッパ文化の共通性 (p. 64~65) 表現が似ているあいさつ キリスト教の信仰 多様な民族と共通の文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常的に用いられる挨拶や, 生活と深く結び付いているキリスト教の習慣などから, ヨーロッパ州の文化についての関心を持つ。 ● 多様な民族で構成されているヨーロッパ州の国々が統合を進めることができた背景には, 言語や宗教の共通性が挙げられることを理解する。 	
34	3 進むヨーロッパ統合 (p. 66~67) 国境をこえた統合 工業の変化 統合の進展と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨーロッパ州で統合されてきた内容を, 写真, 分布図などの資料と本文を関連づけて読み取る。 ● ヨーロッパ州の国々が国境を越えた統合を進めてきた理由について, EU, アメリカ合衆国, 日本を比較した統計資料などを基に考察する。 	
35	4 ヨーロッパの課題とロシア連邦 (p. 68~69) EU のかかえる課題 EU とつながるロシア連邦	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨーロッパ州の生活の課題について, 写真や主題図からその地域的特色を考察する。 ● 近年, EU 諸国との結び付きを強めるロシア連邦の産業について, 主題図などの資料と「地理にアクセス」を関連づけて読み取る。 	
36	■ ヨーロッパ州の学習をふり返ろう (p. 70)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図や写真, 主題図などの資料から, ヨーロッパ州の学習について振り返り, 整理する。 ● 「ヨーロッパの国々は, なぜ国家間の統合を進めたのでしょうか」という学習テーマの答えと, 今後のヨーロッパ州の課題を経済や政治の視点か 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 70①の基本的な地名の確認に取り組む。 【0.2 時間】 ※上記の確認を踏まえて, 1 時間目で設定した学習テーマに沿って行ってきた学習のまとめを授業で行う。

地理－10

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
		ら考察する。	
-	<p>[深めよう] 環境に配慮されたヨーロッパ社会 (p. 71)</p> <p>ヨーロッパの環境問題</p> <p>EU の取り組み</p> <p>環境に配慮した観光</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨーロッパで環境問題についての国境を越えた協力が早くからなされてきた背景を，その地域的特色を踏まえて考察する。 ● ヨーロッパの環境問題や観光を参考にして，自分の住んでいる地域の環境の向上や観光の在り方について関心を持つ。 	

3 節 アフリカ州 -特定の生産品にたよる生活からの変化- (配当 4 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
37	1 アフリカ州をながめて (p. 72～75) 広大な砂漠が広がるアフリカ アフリカの歩み 独自の言語と公用語 伝統的な文化と産業	<ul style="list-style-type: none"> ● アフリカ州の自然，歴史と文化，産業の特色について，雨温図，分布図，写真などの資料から概観し，基礎的・基本的な知識を身につける。 ● アフリカ州の地域的特色を理解するために，「アフリカでは，なぜ農業や鉱業の生産品が，特定の産業にかたよっているのでしょうか」という学習テーマを立て，意欲的に追究する。 	
38	2 アフリカの産業と新たな開発 (p. 76～77) 世界に輸出されるカカオ プランテーション農業と農牧業 豊富な鉱産資源 アフリカの産業の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ● カカオや希少金属（レアメタル）の生産など，日本人の生活と関わりが深いアフリカの産業に対する関心を持つ。 ● アフリカ州のプランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について，主題図や貿易統計から読み取る。 	
39	3 アフリカの課題と展望 (p. 78～79) 進む都市化 発展への課題 地域の統合と自立への交流	<ul style="list-style-type: none"> ● ナイロビ市内の二つの写真およびアフリカ各地域と日本，世界における平均余命を比較し，その共通性と相違点について考察する。 ● アフリカ州の課題について，都市化，人口増加，環境問題などの視点から理解する。 	
40	■ アフリカ州の学習をふり返ろう (p. 80)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図や写真，主題図などの資料から，アフリカ州の学習について振り返り，整理する。 ● 「アフリカでは，なぜ農業や鉱業の生産品が，特定の産業にかたよっているのでしょうか」という学習テーマの答えを，自立へ向けてのさまざまな努力を踏まえて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 80①の基本的な地名の確認に取り組む。 【0.2 時間】 ※上記の確認を踏まえて，1 時間目で設定した学習テーマに沿って行ってきた学習のまとめを授業で行う。
-	[深めよう] 大自然を生かした観光開発 (p. 81) アフリカの観光 サファリ観光とエコツアーリズム サファリ観光の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● サファリ観光が発展した背景を，アフリカの地域的特色を踏まえて考察する。 ● エコツアーリズムやエコミュージアムの意義について理解する。 	

4 節 北アメリカ州 -盛んな農業や工業の特色- (配当 5 時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
41	1 北アメリカ州をながめて (p. 82~85) 大陸と島々 人々と文化 産業の発展と地域差	<ul style="list-style-type: none"> ● 北アメリカ州の自然，文化，産業の特色について，雨温図，分布図，写真などの資料から概観し，基礎的・基本的な知識を身につける。 ● 北アメリカ州の地域的特色を理解するために，特に，アメリカ合衆国に注目しながら「北アメリカでは，なぜさまざまな産業が盛んなのでしょうか」という学習テーマを立て，意欲的に追究する。 	
42	2 広大な国土と工業化した農業 (p. 86~87) 農業に適した広い土地 大規模で工業化した農業 農業に進出する企業	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色を，写真，グラフ，分布図などから読み取る。 ● アメリカ合衆国が多様な農産物を大量に生産できる理由を，気候，生産方法，経営者のそれぞれの視点から考察する。 	
43	3 工業の発展と工業地域 (p. 88~89) 豊かな資源を利用した工業 情報化と新しい工業の発展 経済を支える人々	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ合衆国で発展してきた重工業や先端技術を用いた工業の特色を，写真，グラフ，分布図などから読み取る。 ● アメリカ合衆国の工業は，広大な国土と豊かな資源に加えて，ヨーロッパ州やアジア州からの移民の存在によって発展してきたことを理解する。 	
44	4 産業を支える新しい文化と人々 (p. 90~91) 快適な生活の追求 豊かな国を支える人々	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ合衆国の生活・文化が，世界の国々に与えている影響について関心を持つ。 ● 北アメリカ州の人々の生活について，人口構成や経済の視点から，地域的特色を考察する。 	
45	■ 北アメリカ州の学習を ふり返ろう (p. 92)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図や写真，主題図などの資料から，北アメリカ州の学習について振り返り，整理する。 ● 「北アメリカでは，なぜさまざまな産業が盛んなのでしょうか」という学習テーマの答えを，アメリカ合衆国に注目しながら，農業と工業を中心に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 92①の基本的な地名の確認に取り組む。 【0.2 時間】 ※上記の確認を踏まえて，1 時間目で設定した学習テーマに沿って行ってきた学習のまとめを授業で行う。

地理－13

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
-	<p>[深めよう] 多民族社会を 形成するアメリカ (p. 93)</p> <p>移民が造った多様な国 さまざまな多民族社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカが多民族社会になっ た理由を，その歴史的背景や 地域的特色から理解する。 ● 多民族社会と，その問題点の 解決の努力とについて関心を 高める。 	

5 節 南アメリカ州 -開発の進展と環境問題- (配当 4 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
46	1 南アメリカ州をながめて (p. 94~97) 南北に長い大陸 混じり合う人々と文化 都市と産業の発達	<ul style="list-style-type: none"> ● 南アメリカ州の自然, 文化, 都市と産業の特色について, 雨温図, 分布図, 写真などの資料から概観し, 基礎的・基本的な知識を身につける。 ● 南アメリカ州の地域的特色を理解するために, 「南アメリカでは, なぜ開発が進んだのでしょうか」という学習テーマを立て, 意欲的に追究する。 	
47	2 自然環境と共生する人々 (p. 98~99) アマゾン川と暮らす人々 森林で暮らす人々 草原で暮らす人々	<ul style="list-style-type: none"> ● 南アメリカ州の自然環境の様子を, 写真や模式図などの資料から読み取る。 ● 南アメリカ州では, 環境をどのように利用しながら生活してきたのか, それぞれの土地の産業を中心に考察する。 	
48	3 開発の進行とその影響 (p. 100~101) アマゾン地域の開発 食料とエネルギーの増産 開発と環境保護の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● アマゾン地域の写真や分布図などから, 開発の影響と課題について読み取る。 ● 南アメリカ州の環境問題について, 食料やエネルギー生産の視点から, 地域的特色を考察する。 	
49	■ 南アメリカ州の学習をふり返ろう (p. 102)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図や写真, 主題図などの資料から, 南アメリカ州の学習について振り返り, 整理する。 ● 「南アメリカでは, なぜ開発が進んだのでしょうか」という学習テーマの答えを, 自然環境と開発の視点から考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p. 102①の基本的な地名の確認に取り組む。 【0.2 時間】 <p>※上記の確認を踏まえて, 1 時間目で設定した学習テーマに沿って行ってきた学習のまとめを授業で行う。</p>
-	[深めよう] 南アメリカで活躍する日系移民 (p. 103) 南アメリカにわたった日本人 日系社会の形成と変化 ブラジル社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 南アメリカにはたくさんの日系人が住んでいることに関心を持つ。 ● ブラジル社会において日系人が高く評価されている理由について理解する。 	

6 節 オセアニア州 -強まるアジアとの結び付き- (配当 4 時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
50	1 オセアニア州をながめて (p.104~107) 「乾燥大陸」と多くの島々 オセアニアの文化 変化するオセアニアの経済	<ul style="list-style-type: none"> ● オセアニア州の自然, 文化, 産業の特色について, 雨温図, 分布図, 写真などの資料から概観し, 基礎的・基本的な知識を身につける。 ● オセアニア州の地域的特色を理解するために, 「オセアニアでは, なぜアジアとの結び付きが強くなってきたのでしょうか」という学習テーマを立て, 意欲的に追究する。 	
51	2 資源によるアジアとのつながり (p.108~109) 変わる輸出品と貿易相手国 自然環境に応じた農牧業 豊富な資源を生かした国際関係	<ul style="list-style-type: none"> ● オーストラリアの農牧業や鉱業の特色を, 写真, グラフ, 分布図などから読み取る。 ● オーストラリアの貿易内容や相手国の変化から, アジア州とのつながりが深まってきた理由を考察する。 	
52	3 人々によるアジアとのつながり (p.110~111) 白豪主義からの転換 多文化社会を目指して 増大するアジアからの観光客	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア州からの移民や日本からの観光客が多いことによるアジア州の影響やアジア州との結び付きに関心を持つ。 ● 人々の交流の面から, オセアニア州とアジア州とのつながりが深まってきた理由や課題を考察する。 	
53	■ オセアニア州の学習を ふり返ろう (p.112)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図や写真, 主題図などの資料から, オセアニア州の学習について振り返り, 整理する。 ● 「オセアニアでは, なぜアジアとの結び付きが強くなってきたのでしょうか」という学習テーマの答えを, 資源や人々とのつながりを中心に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p.112①の基本的な地名の確認に取り組む。 【0.2 時間】 ※上記の確認を踏まえて, 1 時間目で設定した学習テーマに沿って行ってきた学習のまとめを授業で行う。
-	[深めよう] 水没の危機にあるとされるツバル (p.113) 島国ツバル 水没の危機と地球温暖化 地球規模の環境変動とツバル	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真からツバルの水没の危機について読み取る。 ● 環境問題の原因について多面的に考察する必要があることに関心を持つ。 	